

2022年度 日本農業経済学会・ミニワークショップ 「研究者の現在と将来ー大学での育成と社会での仕事を考えるー」

近年、学術団体を取り巻く状況は厳しく、本学会を含め会員数は長期的に減少傾向にある。研究者を養成する大学において、大学院進学者が少なく、さらに研究職を志望する者は僅かである。そのため、採用先となる研究機関、シンクタンクなどの企業等においては安定的な採用が困難な状況にある。

豊富で質の高い学術研究は、学術の発展のみならず、社会課題の解決や社会発展の基礎として不可欠である。大学のみならず研究機関・シンクタンクなどの企業等に属する研究者はその担い手であり、今後とも質の高い研究を維持しながらその成果を社会に還元していくためには、持続可能な研究者の育成や能力向上が学会にとって重要な課題となる。

本学会では、これまで農業経済学教育のあり方や学会の今後の方向性について議論してきた。本ワークショップにおいては、大学から、研究者育成の現状や課題について報告を受ける。合わせて、修士や博士学位取得者の活動の場となる研究機関・企業等からは、若手への期待や採用後の仕事の状況、さらなる能力向上のための課題等について報告を受ける。専門性をもった仕事の役割が増している省庁からも報告を受ける。それをもとに、研究者の育成と研究者の仕事の現在と将来について議論し、今後のあり方について多角的に検討する。

日時：3月27日（日）11:40-13:10

プログラム

オープニング：友田滋夫（連携委員会幹事・日本大学）

連携委員長あいさつ：福田晋（日本農業経済学会会長・九州大学）

座長解題：新山陽子（立命館大学）

研究者育成側からの問題提示

：大学院進学・研究・就職状況、なぜ大学院進学が少ないのか、どこに課題があるか、

今後何が必要かについて、それぞれ発言をいただく

近藤 巧（北海道大学）

中嶋康博（東京大学）

足立芳宏（京都大学）

研究者採用側からの問題提示

：大学院卒の採用状態、どのような資質・能力を求めていたか、大学院時代にどのような学びができれば良いか、採用側のキャリアパスの課題、今後何が必要かについて、それぞれ発言をいただく

内田多喜生・小田志保（農林中金総合研究所）

日隈崇秀・松原拓也（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

杉中 淳（農林水産省）

高橋克也（農林水産政策研究所）

会場とのディスカッション

座長まとめ（これから取り組みに向けて）

クロージング：友田滋夫（連携委員会幹事・日本大学）